

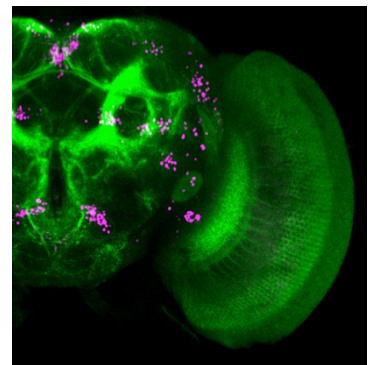
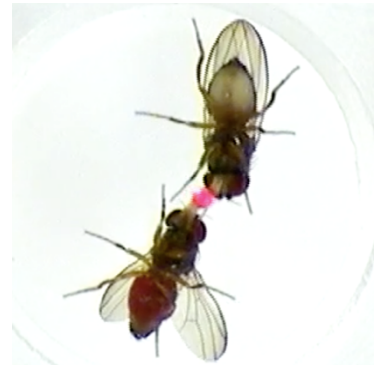
行動の種特異性を規定する神経メカニズム ショウジョウバエの求愛行動を用いた研究

田中 良弥 博士

日本学術振興会 特別研究員PD
名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻

「どのようにして種ごとに異なる行動パターンが生み出されるのか？」について、ショウジョウバエを用いて神経生物学の視点から研究に取り組んでいる。

従来、行動に関わる神経メカニズムは非常に限られたモデル種でのみ研究されてきた。そのため、動物行動の種特異性を規定する仕組みはほとんど理解が進んでいない。モデル種であるキイロショウジョウバエと同属の *Drosophila subobscura* (*D. subobscura*) のオスは交尾に至るまでに吐き戻した消化管の内容物をメスに与える婚姻贈呈を示す。このような婚姻贈呈は同属他種では見られないことから、*D. subobscura* において新たに獲得された求愛行動であると考えられている。私たちは、*D. subobscura* にゲノム編集技術や光遺伝学ツールを適用することで神経回路の可視化・操作を実現し、キイロショウジョウバエの知見と比較することで求愛行動の種特異性を規定する神経メカニズムを明らかにできるのではないかと考えた。本セミナーでは、*D. subobscura* の婚姻贈呈に関わる神経メカニズムの紹介を通して、新奇な求愛行動の獲得過程について議論したい。



4月26日 (木) 11:00-12:30

理学部 E 館、E131

Language: Japanese